

第23回参議院議員選挙

比例代表で連合組織内候補6人当選

構成組織のみなさまの
ご奮闘に感謝申し上げます!!



◇比例代表
連合組織内候補
当選者の
みなさん
(左から獲得票順 / 敬称略)



選挙結果

《鳥取選挙区》投票率58.88%(過去最低)

当選	舞立 昇治(自民/新)	160,783票
	川上 義博(民主/現)	82,717票
	岩永 直之(共産/新)	19,600票
	吉岡由里子(諸派/新)	6,782票
	井上 洋(無所/新)	6,158票

《比例代表・民主党7議席/連合推薦候補のみ掲載》投票率(全国)52.61%

当選	磯崎 哲史(自動車総連/新)	271,553票
当選	浜野 喜史(電力総連/新)	235,917票
当選	相原久美子(自治労/現)	235,636票
当選	神本美恵子(日教組/現)	176,290票
当選	吉川 沙織(情報労連/現)	167,437票
当選	石上 俊雄(電機連合/新)	152,121票
	川合 孝典(UAゼンセン/現)	138,830票
	定光 克之(JP労組/新)	120,782票
	轟木 利治(JAM/現)	103,996票

組合員のみなさまへ

この度の参議院選挙における取り組み、大変ありがとうございました。連合が組織の総力をあげて支援した民主党は誠に残念ながら改選議席を大きく下回る結果となりました。多数の党が乱立するなか、民主党への逆風にもめげず、構成組織、単組および各地協のみなさんには、県内各地で最後まで諦めることなく取り組みを進めていただきました。今次選挙の総括は、最終的な分析を踏まえて行いますが、連合推薦候補の勝利に向け、昼夜を問わず献身的に取り組んでいただいた各構成組織・各地域協議会のみなさんの多大なるご尽力とご奮闘に対しまして心から感謝申し上げます。

2013年7月22日 連合鳥取 会長 五十嵐美知義

第23回参議院選挙は7月4日公示、7月21日投開票で実施されました。連合鳥取は鳥取選挙区に「川上義博」さんを推薦、また、比例代表に連合構成組織より9人の候補者を擁立し、期日前投票も利用した「投票へ行こう!」活動を展開して選挙戦を闘いました。しかし、昨年末の総選挙から6ヶ月あまり、民主党は党再生を進めるとともに、選挙戦では人を大事にする政治を掲げて闘いましたが、国民の信頼を回復するには至らず惨敗を喫し、全体で17議席を確保することになりました。連合鳥取推薦候補者の川上義博さんも自民党候補に及ばず、また、比例代表でも9人中6人の当選にとどまる結果となりました。与党(自公)は参議院において過半数を大きく超える議席を獲得し、衆議院でも3分の2を越す議席を有しているため、国会で強大な権力を持つこととなりました。しかし、数の横暴は許されるはずもなく、国民の声、働く者の声に謙虚に耳を傾けて政策を前に進めていくことを期待します。

連合鳥取2014年度政策・制度要求事項〈対鳥取県〉決定(別紙参照) —「第8回(拡大)執行委員会」で決定—

連合鳥取は、「働くことを軸とする安心社会」をめざし、毎年、各産別・単組から出された要望を取りまとめ、鳥取県に対する要請行動と担当部局との交渉(意見交換)を実施しています。

本年も6月22日(土)に開催した「政策討論集会」を受け、「第8回(拡大)執行委員会(2013.7.18開催)」において、別紙のとおり33項目の要求事項を確認しました。

8月9日(金)、五十嵐会長が鳥取県知事に要請書を手交し、その後、担当の部局との交渉を8月下旬から9月上旬に実施していく予定です。

子どもたちに核兵器も戦争もない未来を! —ピースウォークを実施—

連合鳥取は毎年、地域や職場において核戦争のない平和な社会づくりを考える機会として、各地協で企画した内容で「ピースウォーク」を開催し、平和運動の輪を広げることとしています。

今年の中央会場となる中部地協は7月28日(日)、約110人の参加のもと倉吉交流プラザ視聴覚ホールでの「平和学習会」と「デモ行進」を行いました。また、西部地協は前日の27日(土)に計画し、参加者のみなさんにご集合いただきましたが、大雨のため中止となりました。

なお、東部地協は8月3日(土) さざんか会館で映画「戦争をしない国 日本」を通じて、憲法と平和主義について考えたいと思います。

中央会場(中部)

中央会場では、主催者を代表して五十嵐会長が「米軍による沖縄地上戦、広島・長崎への原爆投下で多くの命が奪われ、被爆者は今なお苦しんでいることを忘れてはならない」とあいさつをし、来賓代表では民主党県連興治幹事長が参議院選挙のお礼と「憲法改正が平和に悪影響する」とあいさつしました。

平和学習会では、杉正太郎さんによる「平和がいいに決まってる」と題し、講演&コンサートを行いました。杉さんは、横浜で組合活動の経験がある異色の演出家で、社会風刺コント集団「ザ・ニューズペーパー」を結成し、構成・演出を担当している人です。これまでの反戦・平和という切り口とは異なる、東アジアの平和から日本を見つめるもので、食糧安保から世界の支配構造に至るまでの内容を替え歌5曲にして訴えました。

また、会場も聞くだけではなく、デモ行進の準備体操

として得意なパントマイムを駆使して心と体をほぐしました。

その後、薄曇りで比較的過ごしやすい気候の中、参加者全員で市街地をデモ行進し、世界の恒久平和の実現、核兵器廃絶などを地域に訴え連合鳥取「ピースウォーク」を終えました。



パントマイムの様子



「子供たちに核兵器も戦争もない未来を」

来年度につないでこう

西部地協ピースウォークに80人集合したが雨で中止

西部地協の「2013ピースウォーク」は、7月27日(土)9時、子どもを含む約80人が大山寺の玄関口「博労座」に集結しましたが、想定外の大雨と注意報発令により、10時、やむなく中止の判断を下しました。

西部地協では毎年、創意・工夫を凝らしたピースウォークで平和を訴えてきましたが、元来の人間が持つ「煩(煩わしさ) 悩(悩み)」が社会の差別や歪みを生みだし、紛争や戦争を引き起こしているという神仏の原点に立ち返って、本年のピースウォークは「天台宗・大山寺本堂」において「世界平和祈願」を行うことで意思統一してきました。

本来であれば9時20分、参加者は博労座から大山寺参道を平和アピール行進し、全員が本堂にて「世界平和祈願」に祈りを捧げた後に、「阿弥陀堂」にて40分間の「座禅」に臨み、無念無想の境地に入り悟りの道求め、すっきりした心身において夏山登山道を下り、大山寺橋など県道行進では再び平和アピールで訴え、博労座ふもとの食堂において和気あいあいの昼食を囲む予定でした。

しかし、当日、中止の判断を下した1時間後、皮肉にも大山山頂が姿を現しました。既に帰路に着いた組合員もいましたが、約50人の参加者は、家族や仲間単位でそれぞれ大山寺本堂にお参りしたり、自然歴史館で学んだり、参道巡りなどを行い、昼食会場にしていた「こもれび館」に再集合いただきました。

参加者からは「天候は連合の責任ではない(笑)」など癒しの言葉や、「来年、もう一度企画して欲しい」「子ども達に座禅の経験をさせてやりたい」など、貴重な意見が寄せられました。西部地協では当分の間、大山寺での平和祈願を継続することとしています。



雨の中、集まっていたみなさん

働くみんなのナショナルセンター『連合ってなに?』 — 「青年委員会学習会」で連合の歴史と活動を学ぶ —

7月13日(土) 倉吉未来中心において、青年委員会「学習会」を開催しました。講師には連合鳥取田中穂事務局長を招き、58人が参加しました。

筒井貴生委員長による開会のあいさつの後、田中事務局長より4つのテーマにそって講演をいただき、最後に質疑応答を行いました。

テーマ①では、連合運動のコンセプト、連合加盟のメリット、連合の歴史を学び、現在の連合の形になるまでの道のりがわかりました。

テーマ②では、他の労働団体について学びました。給与と所得者全体のうち5分の1程度しか組合に加盟しておらず、若い人の組合離れの現状について知ることができ、如何に若者が今後結束力をもって行動を共にしていかなければいけないかを感じました。

テーマ③では、政治活動について学び、原点は組合員とその家族の暮らしを改善し幸せを拡大することにあることを知りました。

テーマ④では、連合鳥取の現状と活動を学びました。会社倒産や組織改革等で組合数や組合員数の減少もありますが、新規の加入等もあるようです。

私も連合鳥取の青年委員会の幹事をしているながら、知らない事ばかりでした。本当に勉強になりました。

(寄稿 青年委員会 幹事 亀川 剛さん)

〈講演テーマ〉

- ①連合とは
- ②他の労働団体とナショナルセンターは
- ③連合はなぜ政治活動に取り組むのか
- ④連合鳥取の現状と活動

田中事務局長(右)の話を真摯に聴く参加者



ものづくりの楽しさを伝えたい

金属部門連絡会として初めての取り組み

— 連合鳥取金属部門連絡会「第1回親子ものづくり教室」開催 —

7月28日(日)、連合鳥取金属部門連絡会は結成後、初となる「第1回親子ものづくり教室」を開催しました。同連絡会はJCM(全日本金属産業労働組合協議会)傘下の電機連合・JAM・自動車総連の3産別で構成し、同じものづくり産業に携わるものとして、地域の子どもたちに「ものづくり」

への興味と関心を高めてほしいとの思いで、今回は鳥取職業訓練支援センター(ポリテクセンター鳥取)の協力と支援を得ながら、同センター会場において実施しました。

はじめに、主催者を代表して同連絡会の小椋議長が「親子の共同作業で『ものづくりの楽しさ』と『製作後の喜び』を感じていただければ嬉しい」とあいさつしました。

今回のものづくり教室には、小学生とその保護者約50人が参加し、「ソーラーかえる」と「木工時計」の2種類を約2時間20分かけて制作しました。「ソーラーかえる」は太陽電池の仕組みを学習した後、部品を一つひとつ注意しながら組み立てていました。完成後は光を当てると飛び跳ねる「かえる」に子どもたちは嬉しそうな笑顔でした。「木工時計」はボール盤で穴あけし、紙やすりで角の面取りからニス塗装まで行いました。低学年の小学生では力が弱いので、面取りなどは保護者の方が懸命になって手伝っておられました。

終了後、子どもたちから「難しかったけど楽しかった!!」という声も多数聞かれ、親子での楽しいふれあいの場にもなったものと思います。また来年は、今年よりパワーアップし、「親子ものづくり教室」を開催していきたいと思ひます。

(寄稿 連合鳥取金属部門連絡会 事務局長 西川真也さん)



あいさつする小椋議長



核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現を!

— 鳥取市非核平和都市宣言30周年記念事業「非核平和講演会」に参加 —

7月6日(土)、非核平和都市宣言推進鳥取市実行委員会主催の「非核平和講演会『被爆体験講話』が、鳥取市さざんか会館において開催され、連合鳥取東部地協から約20人が参加しました。

この講演会は、鳥取市が1983(昭和58)年に非核平和都市宣言を行ってから30周年を迎えたことから、その記念事業の一環として開催されました。講師として、広島平和文化センター被爆体験証言者である寺本貴司さんが招かれ、「消したいあの1年」と題し、自らの被爆体験についてご講演されました。寺本さんは、10歳の時、爆心地から1km離れた自宅で、疎開先の友人に手紙を書こうと机に向かっていた時に被爆されたとのこと。核兵器の廃絶、恒久平和の実現の一助になればと当時の記憶をたどり、戦争の愚かさや怒り、悲しみを語られました。

戦後68年を迎え、戦争や核被爆の体験を伝えていくことが困難になりつつある今日、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和や命の尊さについて参加者全員で考え、平和意識の高揚を図りました。



Information

参加者募集!

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

連合鳥取「第9回ユニオンスクール」

- ◇日時 8月24日(土)10時00分～16時30分
- ◇場所 倉吉未来中心・セミナールーム3
- ◇内容 ①富士社会教育センターより講師を招き、講義とグループワーク
 - ・もし労働組合がなかったら
 - ・労働組合の必要性と労働運動の社会的役割
 ②講演/労働者福祉向上の意義と取り組み方「労働金庫や全労済、生協の目的」

講師/中国労働金庫 全労済鳥取県本部より予定

第21回連合鳥取杯親睦ゴルフ大会

- ◇日時 9月21日(土) 受付 7時45分～ スタート 8時33分～
- ◇場所 大山平原ゴルフクラブ
- ◇実施 各産別を通じてご案内しています。
- ◇要領 参加人数 104人を予定(26組)

プレー費 11,000円(各自負担)

参加費 3,000円(当日徴収)

※参加申し込みメット日 8月16日(金)

“ザ・議員”

福井 康夫 倉吉市議会議員

☆議会報告から(パブリックコメント実施へ)

景観行政団体の責任として、再三にわたり倉吉市の空き家と危険家屋の実態調査を取り上げてきました。ようやく「倉吉市空き家等の適正管理に関する条例(案)」の概要が出され、パブリックコメント実施となりました。市内には空き家戸数として690戸(84%)、危険家屋戸数127戸(16%)が報告されています。

市民の期待と関心は高いと感じています。来年4月からの実施が予定されています。

☆選挙関連

昨年政権交代後、2度の国政選挙で民主党は大敗北。

40年間の自らの戦いを振り返りつつ、今年10月の市議選に向けて活動しています。



倉吉市議会での様子

中野 隆 倉吉市議会議員

参議院選挙で民主党が大敗しました。民主党の市議会議員としてみなさまに申し訳ないという気持ちです。

政治は社会的に弱い立場の人に重点を置き、なされるものだと考えています。(あらゆる差別をなくしていくこと、病気などで経済的に困っている人などの相談など…)

しかし、自分にできることには限界があります。良い制度を知らない人には紹介できますが、制度以上の事はできないのです。これからはみなさまと一緒に血の通う制度を作り、暮らしやすい社会に変えていくために行動していきます。

地元ではバス停から家まで送っているボランティアタクシーの運転手、地域伝統文化に尺八で参加しております。



ボランティアタクシーを運転

なぜ、日本の公共交通がかくも病んでしまったのか、このような情勢の中でなぜ「規制緩和」を断行し、地域公共交通の衰亡を早めたのかが理解できず、先進諸国の公共交通の研究をしてみた▼先進諸国では「いかにして公共交通の維持、存続をはかっているのか」を調べてみると、先進諸国のなかで公共交通を民間に任せきっている国は日本国だけであることがわかった▼特に、ヨーロッパでは「道路をつくりマイカーを増やす政策」をとれば、顧客の半分以上がマイカーに移転し、公共交通は経営できなくなるだろうという構造的な問題点を知っていた。また、アメリカでは自動車メーカーが自動車普及のために鉄道会社を買収し潰している事実を冷静に見ていたのである▼地域公共交通がビジネスモデルとして成り立たないというところは簡単に立証できる。人口減少と財政不安がもたらした地方を襲い、金融環境の変化で資金繰りがつかず、地域交通の衰亡へとつながってしまおう。再度、ノーマイカー運動実施の強化にて、人口の減少が続く鳥取県の公共交通の重要性を真剣に考えていた(マル交)

たんごんごんごん

